

## 水稻の10月の巡回調査結果の概要

### 【東北信】

- (1) 斑点米（予察ほ場の斑点米調査） 調査日 10月29日
  - ・9月19、26日、10月1日に収穫、10月15日に脱穀、粃摺りを行った玄米を調査した。
  - ・斑点米の発生は全調査地点で平年に比べて多かった。また、着色粒の発生も平年比べて多かった。
- (2) イネ黄萎病（再生稲調査） 調査日：10月21、23、24日
  - ・巡回調査ほ場およびその周辺ほ場における調査では、再生イネ（ひこばえ）の黄萎病の発生は、確認されなかった。また、過去にイネ黄萎病の発生が確認された地点を併せて調査したところ、2地点で発生が確認されたが、発病株率は平年に比べて低かった。



写真1 再発イネの黄萎病（中野市）

### 【中南信】

- (1) 斑点米（予察ほ場の斑点米調査） 調査日 10月29日、11月1日
  - ・9月10、11日、10月2日に収穫、10月15日に脱穀、粃摺りを行った玄米を調査した。
  - ・斑点米の発生は飯田、木曾、松本、大町は平年に比べ多く、諏訪、上伊那は少なかった。
- (2) イネ黄萎病（再生稲調査） 調査日：10月21、23、24日、11月1日
  - ・地区予察ほ、巡回調査ほ場およびその周辺ほ場における調査では、黄萎病の発病は確認できなかった。過去にイネ黄萎病の常発地とされた場所を併せて調査したところ、松本市の3地点で発病が確認された。発病株率は平年に比べては低かったが、過去2年に比較するとやや増加していた。